

渡邊 浩一郎

課題1
誰もが使いたくなるような
「大分市公式アプリ」のアイコンとアプリ内デザイン

渡邊 浩一郎

「ユーザーが情報を簡単に引き出せる利便性と提供側の開発コストを抑える効率性をシンプルなアプリ設計で両立する」

アプリのアイコンのコンセプト

カボス + さるの融合
OITAの要素を隠し込む
ボスさるのキャラ付け
こどもでも描けシンプルさ

アプリのアイコン・ロゴ

キャラクター
キャラクター化したアプリのアイコンがアプリ内のナビゲーターになる

デザインガイドライン（概略）

アイコン
(Material Symbols に準拠 - fonts.google.com/icons)
アイコンのグラフィックは基本的にライブエリアに収まるよう作る。24 × 24 dp の場合、ライブエリアは 20 × 20 dp
ストロークの太さは 2 dp、角丸のサイズも 2 dp

コンボーネント
(各OSの標準仕様に準拠)
慣用組合せの属性のある操作性を提供できるように、システムデムで定義されたコンボーネントを使用
システムフォントの使用を基本とする

アイコン
オンライン申請
ごみの出し方
大分市Wi-Fi
AIチャットボット
防災管理機能
新着情報
遊び・イベント
手当・助成
市報大分
クーポン
休日夜間当番医
おおいたマップ
ふるさと納税
SNS一覧
電話案内
母子モ
育児
ホーム
街
ボトル

トップメニュー
表示 / 非表示の切り替え
リストのドラッグによるホームメニューの個別化
更新数の表示

チャット
虚偽なチャット
カボスさるによるナビゲーション
音声入力を重複

イベント
画像による情報の補助
月間カレンダー表示
マップ、電話、クーポンとの連携

検索結果
カテゴリをアイコンで強調
内容の要点をリスト表示で確認
情報シェア

ごみ回収日カレンダー
カレンダーへのリンク
期間カレンダーとの連携
アイコン、文字、色による識別補助

防災危機管理、設定
健康情報の一覧
アイコンのキャラクタ化
オフラインでも機能可能な機能の実装
音声やカメラによる入力の補助

カラー

フォント

ロゴ
カボスさる (あかずきんボップ)
システィム
カボスさる (SF Pro, ヒラギノ角ゴシック)
カボスさる (Roboto, Noto San JP)

データを再デザインする

「誰もが使いたくなるようなUXを実現するためには、アプリのUI改善に加えて、データを紙面化と統一性を持った形式を作成、保存することが重要である。具体的には、タイトルや現地化した整えたスタイルに加え、作成部署や公開期間などのメタデータを含むXMLやJSON形式でデータを構造化することが望ましい。このように整理された構造化データは、アプリ、ウェブ、紙媒体など異なるプラットフォームで活用でき、検索性の向上やHTML変換の効率化を実現する。また、AIとの親和性が高く、行政業務の効率化や市民への迅速な情報提供、さらには行政サービスの向上にも貢献する。」

複数の作業が必要になるこれまでのデータの流れ

作業の省力化と双方向に利用可能なデータの流れ

アプリの機能を再デザインする

検索やAIチャット機能
トップ画面に検索バーを配置し、ユーザーがすぐに情報検索を始められるようにする。大分市に関するさまざまな情報を提供し、検索結果を既存のわかりやすいアイコンで分類することで、必要な情報を迅速に見つけやすくなる。また、AIチャットシステムを改修し、簡潔かつ正確な回答を提供できるようにする。さらに、複数の質問にも段階的に対応できる会話型インターフェースを導入し、利便性を向上する。

頻繁に更新される情報
「新着情報」や「イベント情報」などの頻繁に更新されるコンテンツを、アプリ内でリアルタイムに反映する仕組みを構築する。情報発信にはフィルター機能を導入し、ユーザーごとに必要な情報を別けて、アプリ内表示を個別化することも。AIによる通知機能を追加する。また、若者の参加を促進するために、「OITAえんむす部」や「さきめき出会いプロジェクト」との連携も検討する。

ネイティブアプリの特徴を考え、以下の機能を順次強化することを提案する。

防災危機対策
災害情報のプッシュ通知機能を導入し、緊急時に迅速な情報を有効実現する。GPSを利用し、ユーザーの現在地に応じた避難所や地図情報を提供。また、カメラ機能で災害状況の報告や市の要望を簡単に行えるようにする。収集した情報をAI/AIによるナレッジ利用の強化

健康管理機能
生活習慣病に関する血圧や体重といったデータを、高齢者がBluetoothを介して音声入力や写真撮影で手軽に記録できる機能を追加する。データは医療機関と共に有され、災害時の健康管理にも活用できるようになります。記録したデータはOSの「ヘルスケア」やAndroidの「Health Connect」と連携し、QRコードによって医療機関に提供することで、医療業務の効率化を図る。また、「いきいき健康新規民21」との連携も検討する。

渡邊 浩一郎

現状分析・問題抽出

課題一覧の掲載情報や課題提供者へのヒアリング、生活者との意識等からこの課題をどのように捉えるか？

▶ 現状について

● さまざまなアイコンタイプが混在している

大分市オリジナルアイコン、FONT AWESOME（Ver 4）類似アイコン、大分市ホームページと共に通のアイコン、オリジナルアイコンなどの、異なるアイコンデザインが混在し、配色もさまざまである。

● アプリの機能は、他のサービスやネット接続に依存している

最近追加された「洪水ハザード」や「水害監視カメラ」などの多くの機能は、外部のウェブサイトや他のアプリを起動するランチャーとしての役割を果たしている。一方で、「ゴミの出し方」「大分市Wi-Fi」「新着情報」「クーポン」の4つだけがアプリ内の独自機能として提供されている。しかしながら、これらもインターネット接続が前提となっており、最新の情報は入手できるものの、オフラインでは利用に制約がある。また、ゴミ回収日のように年間データとして提供が可能な情報については、頻繁にアクセスする必要がなく、オンライン機能とオフライン機能の統合は不十分であり、改善が求められる。



▶ そもそも問題はどこにあるのか

● 一貫したデザインポリシーの欠如がユーザーに不自然さや違和感を与えている

アイコンやコンポーネントのデザインが一貫しておらず、全体的な統一感が欠如している。そのため、アプリ全体の見た目や操作性が直感的でなく、ユーザーに違和感を与える要因となっている。

● 情報の整理が不十分である

ホーム画面には18個のアイコンが並んでおり、さまざまなカテゴリーが混在しているため、ユーザーが求めている機能を探す際に混乱する恐れがある。その結果、大分市が伝えたい重要な情報がユーザーに届きにくくなっている。

● 機能が分散しているため、一貫したユーザーエクスペリエンス（UX）が得られない

アプリ内の機能と外部リンクが明確に区別されておらず、ユーザーがどの操作でアプリ内で完結し、どの操作で外部サイトに移動するのかを事前に把握できない状況にある。そのため、アプリの使用体験に一貫性が欠け、ユーザーの期待と実際の動作との間にズレが生じている。さらに、外部サイトに誘導された場合に、必要な情報にスムーズにたどり着けないことも問題となる。

● 直感的かつ迅速な情報検索が難しい状態である

キーワード検索機能が提供されていないことから、ユーザーが情報を効率的に検索することが難しい状態である。ツリー形式のAIチャット機能はあるものの、ユーザーの質問に対し具体的で実用的な回答を提供する力が不十分であり、使い勝手が良くない。

ビジョン

そもそも問題を解決するためには、どのような状態になることが望ましいと考えるか。

“ユーザーにとって情報を簡単に引き出せる利便性を提供し、提供側のコストを抑えた効率的な運営を実現できるアプリが望ましい”

● キャラクターを活用したアプリナビゲーションによるブランド強化を図る

アプリのアイコンは、単なるアイコンとしての機能を超えて、ユーザーがアプリを操作する際のナビゲーションをサポートするキャラクターとしても機能する。キャラクターを活用したアプリナビゲーションにより、ユーザーはより親しみを感じ、アプリ全体の統一感を向上させ、ブランドイメージを強化する。

● デザインガイドラインの作成を策定する

デザインガイドラインを策定し、アプリ全体のデザインを統一する。このガイドラインは、統一感のあるアイコンやiOSやAndroidの標準のコンポーネントを活用し、汎用性を確保しながら運営コストや開発負担を軽減することを目的とする。さらに、外国人や色覚異常者、高齢者など、多様なユーザーに配慮し、色調、アイコン、文字情報を効果的に組み合わせたシンプルで分かりやすいデザインを目指す。

● 効率的な情報提供と機能拡張のためのデータ基盤の構築を行う

UIの改善だけでは、「誰もが使いたくなる」アプリを実現するには不十分である。ユーザーフレンドリーな体験を提供するためには、効率的な情報提供を可能にし、拡張性を備えたデータの構造化と集約が欠かせない。この仕組みにより、アプリに限らず、市のホームページや市報、窓口業務などへの情報展開が効率化され、迅速な情報提供とコスト削減が期待できる。また、AIの活用にも対応できる基盤が整い、行政サービスの質を大きく向上させることが可能となる。

プランニング

問題を解決するためのアイデアや、その先のビジョンを実現するためのプラン。

● キャラクターデザインを設定する

大分市を象徴するキャラクターを導入し、ユーザーに親しみやすさを提供する。

● デザインガイドラインを策定する

Material Designに沿ったアイコンや、iOSおよびAndroidに準拠したコンポーネントに基づくデザインガイドラインを策定する。

● 改善されたUIに変更する

上記デザインガイドラインに沿って、ユーザーが直感的に操作できるインターフェースを構築する。

現在のアプリにおけるUXの課題は、単なるUIの問題ではなく、活用できるデータの整備が十分でないことが主な要因ではないかと考えられる。今回の課題からやや離れる可能性はあるものの、データとアプリの機能を見直す観点から、以下の提案を示したい。

● データを再デザインする

外部サービスへの依存やデータの分散による問題を解決するため、構造化データを集約し、一元的に管理して活用できる仕組みを構築する。

● データを再デザインする

情報の散在やアクセスの煩雑さを解決するため、主要機能を再設計し、ユーザーのニーズに応じた情報提供を優先する。

デザインコンセプト・提案のポイント

アイデアやプランを実践するためのデザインの役割や問題解決のためのポイント。

“提案のポイントは、独創性よりもシンプルで汎用性に優れたデザインを採用することで、ユーザーが情報を簡単に取得できる利便性を提供しながら、運営コストの削減と効率的な管理を実現することにある”

● 親しみやすさを追求したアプリのアイコンデザイン

大分県を代表する特産物であるカボスと、全国的に有名な高崎山のサルを融合させたキャラクターを採用し、幅広い世代に親しまれるデザインを目指す。デザインや色調は他のアイコンと調和させ、子どもでも描けるようなシンプルで親しみやすいものにする。

大分県はかぼす生産量全国1位で、全国で99%（平成30年の生産量を大分県が占めている。かぼすは県下全域で栽培されており、主な産地は臼杵市、竹田市、豊後大野市であるが、大分市もカボス栽培面積は15ha有する（<http://oitakabosu.com>）。高崎山自然動物園のさるは野生のサルに餌付けをしていることで全国的に知られている。

● アプリ全体の一貫性を高めるデザイン

統一感のあるデザインガイドラインを採用し、アプリ全体の一貫性を高める。アイコンのデザインにはオープンソースリソースを活用し、各OSの標準コンポーネントに準拠することで、整合性を保ちながら開発コストを削減する。また、アプリのアイコンをキャラクター化してナビゲーションに活用し、他のアイコンも同様にキャラクター化して使用することで、アプリ内での一貫性を強化する。

● ユーザー主導のインターフェース改善

初期画面をリスト形式に変更し、ユーザーがドラッグ＆ドロップでメニューを自由にカスタマイズできるようにする。また、検索バーを配置し、AIによるチャット機能を活用することで、迅速な情報アクセスを実現する。

現在のアプリが抱える本質的な問題は、UIの課題以上にサイロ化されたデータと情報の統合不足にあると考えられる。これを踏まえ、UXの向上と行政業務の効率化を同時に実現するための具体的なアプローチを提案する。

● 直感的なナビゲーションを実現するためのデータ戦略

分散した情報を統合し、各プラットフォームで統一された体験を実現するには、共有可能なデータ基盤の整備が不可欠である。XMLなどの構造化データフォーマットを採用することで、異なる環境間での互換性を保つつつ、リアルタイムでの情報連携を可能にする。

● リアルタイム情報提供と機能拡張

検索機能とAIチャットを強化し、トップ画面から直接アクセスできるようにする。また、市役所のウェブサイトとの連携と差別化の両面を整備し、ネイティブアプリの利便性を活かしたサービス設計を目指す。具体的には、「防災危機管理」や「健康管理機能」など、市民に貢献するサービスを提案する。